

基準 4. 学 生

基準4. 学生

4-1. アドミッションポリシー（受け入れ方針、入学者選抜方針）が明確にされ、適切に運用されていること。

(1) 事実の説明（現状）

4-1-1① アドミッションポリシーが明確にされているか。

大学院のアドミッションポリシーは、教育目的である「広い視野に立った芸術研究の発展」、「専攻分野における卓越した能力」を基本とし、この教育目的にふさわしい入学者の選抜と受け入れを図ることにある。

大学院は例年、主として音楽学部4年生を対象に毎年4月に入試ガイダンスを行っている。

その際、大学院のアドミッションポリシーについて述べ、「マスターズ・コンサート」（付属機関であるザ・カレッジ・オペラハウス専属のオペラハウス管弦楽団との共演で行う）をはじめとする各研究室別の研究発表会、研究の体制などについて説明をしている。また、入学を希望する学生からの活発な質問にも応じている。

4-1-1② アドミッションポリシーに沿って、入学要件、入学試験等が適切に運用されているか。

一般入試による選抜を行っている。推薦・AO選抜は行っていない。

2005年度入学試験の概要は以下の通りである。

図表10 2005（平成17）年度 大学院入試要項

出願期間	2004年9月27日（月）～10月2日（土） 必着
試験期日	2004年10月17日（日）～10月19日（火）
合格発表・方法	2004年10月21日（木） 発送
試験方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門科目および面接 試験委員が採点にあたる。 2. 小論文 3. 外国語 4. 試験科目の配点は、専門科目7：他の科目3 <p>・オペラ研究室、歌曲研究室、ピアノ研究室は、第1次第2次試験方式で実施する。</p>
出願資格	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学を卒業した者（卒業見込みを含む）。 2. 文部科学大臣の指定した者。 3. 外国において学校教育における16年の課程を終了した者。 4. 大学に3年以上在学し、または外国において学校教育における15年の課程を終了し、本学大学院が、所定の単位を優れた成績をもって習得したものと認めた者。 5. その他、本学の大学院で、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。 6. 本学大学院が、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で22歳に達した者（事前に個別

	の入学資格審査を行う)。		
募集人員	作曲専攻	作曲研究室 音楽学研究室	2名
	声楽専攻	オペラ研究室 歌曲研究室	3名
	器楽専攻	ピアノ研究室 管・弦・打研究室	5名
		合計	10名

4-1-③ 収容定員と入学者等、在籍学生数とその適切な管理

大学院の収容定員、入学者数及び在籍学生数は2-2-②図表3（7ページ）に示した。大学院は毎年一定の志願者が確保できており、収容定員に対する充足率は充たされている。

重ねて図表11に2003～2005年度の出願者数、合格者数を各研究室別に示す。

図表11 2003～2005（平成15～17）年度入学志願者数・合格者数（人）

専攻	研究室	2003年度		2004年度		2005年度	
		志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
作曲	作曲	3	3	3	2	2	1
	音楽学（楽理）	2	2	0	-	0	-
声楽	オペラ	12	5	8	2	4	4
	歌曲	8	2	6	2	6	2
器楽	ピアノ	5	1	7	3	10	6
	管・弦・打	2	1	5	3	2	2
	合計	32	14	29	12	24	15

(2) 4-1の自己評価

広報誌「Muse」には受験情報が掲載され、入試ガイダンス日程、入試結果も詳しく掲載されている。また教育目標が大学案内や入試ガイダンスでも説明されている。さらに、疑問点に関しては入試広報デスクが受け付けており、受験生に対する説明はほぼ万全である。

(3) 4-1の改善・向上方策（将来計画）

一定した志願者数を得ていることは喜ばしいが、大学院としてのレベルを保ちつつ、より収容定員数に近づけてく努力が必要である。また、学外への広報手段をより工夫する必要がある。

また、各専攻及び各研究室のアドミッションポリシーをさらに明確化して、学内外に公開していくことが必要である。

4-2 学生への学習支援体制が整備され、適切に運営されていること。

(1) 事実の説明（現状）

4-2-① 学生への学習支援体制の整備され、適切に運営状況されているか。

大学院では例年4月に新入生に対し、ガイダンスを実施している。教育目的を説明し、履修につい

てしっかりした学修計画を立てるよう指導している。その際、大学院学生便覧（大学の沿革、組織、学年歴、大学院規則、学位規則、履修課程等を記載）、講義概要（各科目のシラバス、担当教員名、単位数、成績評価方法等を記載）、キャンパス・ガイド（学生生活の案内、受講登録の方法）、時間割表等が配布され、2年間の学生生活全般における概要を把握できるようになっている。

4-2-2 ② 大学院課程において通信教育を実施しているか。

通信教育は実施していない。

4-2-2 ③ 学生の学修支援に対する意見等を組み上げるシステムが適切に整備されているか。

学修上の支援は科長、運営委員会、各研究室の指導教員が常に対応できる態勢にある。学生生活に係る相談窓口は常時開設されている。学生からの相談があれば学務事務部門（学生生活担当）および学生部長・大学院運営委員会・学生生活委員会が対応すること等、併設教育機関と同様の整備がなされている。

(2) 4-2の自己評価

学生部長、学生生活委員会および学務事務部門（学生生活担当）は、音楽学部・大学院・併設短期大学部を統合して積極的に学生支援を打ち出している。また学務事務部門においても日常的な相談を行っている。

(3) 4-2の改善・向上方策（将来計画）

カウンセラーに相談が集中する場合があるので、今後組織体制のあり方を含めて検討する必要がある。

4-3. 学生サービスの体制が整備され、適切に運営されていること。

(1) 事実の説明（現状）

4-3-1 学生サービス、厚生補導のための組織が設置され、適切に機能しているか。

学生部長、学生生活委員会および学務事務部門が設置され適切に機能している。

4-3-2 学生に対する経済的な支援が適切になされているか。

学生対象の奨学金が数種類設けられている。すなわち、日本学生支援機構（第一種奨学金、第二種奨学金、入学時特別増額貸与）、大阪音楽大学奨学事業団奨学金、大学院奨学金

図表 12 2003～2005（平成15～17）年度 奨学生一覧

奨学金名	種類	月 額 (円)	2003 年度		2004 年度		2005 年度	
			1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年
日本学生支援機構第一種奨学金	貸与	85,000	-	2	-	-	-	-
	貸与	87,000	3	-	2	3	-	2
	貸与	88,000	-	-	-	-	3	-
日本学生支援機構第二種奨学金	貸与	50,000	-	-	-	-	-	-
	貸与	80,000	-	-	1	-	-	1
	貸与	100,000	-	-	2	-	1	2

	貸与	130,000	2	-	1	2	-	1
入学時特別増額貸与	貸与	300,000	-	-	1	-	-	-
大阪音楽大学奨学事業財団奨学金	貸与	45,000	1	1	-	1	1	-
大学院奨学金	給付	50,000	3	3	2	3	2	2

なお、大阪音楽大学大学院奨学金は、音楽学部卒業見込者に対して大学院入学時に優秀な成績で合格し、かつ奨学金の希望を提出した者に対して、毎年5名を限度として、月5万円（年間総額60万円）が給付される。返還の必要はない。

4-3-③ 学生に対する課外活動への支援が適切になされているか。

2000年度より、海外の音楽大学との交流が音楽学部・短期大学部と合同で行われており、補助制度を運用している。（基準3-1 図表参照）

また、学生が企画する「大学院演奏会」が毎年3月に行われる。学生全員がひとつの演奏会に集中して日頃の学修の成果を問うもので、専攻横断型の企画として定着している。その実施状況を図表13に示す。

図表13 2003～2005（平成15～17）年度における大学院演奏会

年月日	演奏会名	開演時間	会場	出演者数
2004年3月23日	「日本の音空間」	18:00	ミレニアムホール	19名
2005年3月23日	「音霊 平和へのメッセージ」	18:00	ミレニアムホール	17名
2006年3月23日	「大地の鼓動」	18:00	ミレニアムホール	24名

4-3-④ 学生に対する健康相談、心的支援、生活相談等が適切に行われているか。

・健康相談

下記図表のように毎年4月上旬に健康診断を実施している。

図表14 2003～2005（平成15～17）年度における学生の健康診断受診率

	学年	対象者数（人）	受診者数（人）	受診率（％）
2003年度	1	13	11	84.6
	2	20	13	65.0
2004年度	1	12	12	100.0
	2	12	11	91.7
2005年度	1	15	15	100.0
	2	11	9	81.8
平均※				87.2

※各年度受診率の合計÷（年度×学年）

・心的支援

保健室と学務事務部門学生生活担当が連携をとって、学生の相談を受けている。必要と判断した場合は、「こころの相談室」カウンセラーへの相談や病院での受診を勧めている。

・キャンパス・ハラスメント相談

学生からの訴えに基づき、学生担当相談員が相談に応じている。相談員が協議し、事案を深刻であ

ると判断した場合には調査委員会が招集され、そこでより詳しく調査を行う。悪質と判断された場合は、学長に報告され、または教授会の議を経て、ハラスメントを行った者に対して措置を講ずる。教職員の場合は理事長へ報告される。

4-3-⑤ 学生サービスに対する学生の意見を汲み上げるシステムが適切に整備されているか。

学生相談の窓口としては学務センターがあるが、それぞれの担当教員が個人的に相談に乗っている場合が多い。また学生と運営委員会との間で話し合いの機会が持たれている。

(2) 4-3の自己評価

学生の健康診断受診率の低い年度があったが、概ね受診率は高い。

キャンパス・ハラスメント相談に関しては前述のようにシステムが整っている。問題となる事例が生じた場合はルールに基づいて解決している。

学生による自主音楽活動としては、学生の自主企画により2006（平成18）年度から開始する「ルイジュ」など学生独自の演奏活動やカリキュラムで設定されている研究室毎の発表会・試演会に加えて年度末に行われる大学院演奏会の準備等で、余力が無いのが現状である。

(3) 4-3の改善・向上方策（将来計画）

音楽学部卒業後、授業料の多寡を理由に旧国公立系の大学院に進学する学生も少なくないのが実情である。このような状況を打破するためにも、奨学金制度の尚一層の充実を図りたい。

健康診断は健全な学修生活を送る上で極めて重要であるため、毎年受診率100%となるよう、学生にその必要性を喚起する必要がある。

キャンパス・ハラスメントについては被害にあった学生が躊躇することなく相談に駆け込めるようなシステムを今以上に構築する必要がある。

図表15 ルイジュ演奏活動2006（平成18）年度予定

日時	場所	出演	曲目	担当
7月11日 (火) 18:00~18:30	ハービスエント 《JEUGIA》	木村孝夫(Bar.) 井前慶子(Vn.) 白石麻奈美(Pf.) 長谷川知里(Pf.)	エルガー：「愛の挨拶」 『フィガロの結婚』より「もう飛ぶまいぞこの蝶々」 『美女と野獣』より「愛せぬならば」 『ウエストサイド・ストーリー』より「トゥナイト」 「アメリカ」、モーツァルト：ソナタ 第1楽章 etc	長谷川知里
7月16日 (日) 13:00~13:30 15:00~15:30	京阪 シティーモール	植田祐佳(Sop.) 後藤美沙(Sop.) 杉浦希未(Sop.) 藤原未佳子(Sop.) 長谷川知里(Pf.)	ふるさとの四季 『コジ・ファン・トゥッテ』より 「妹よ御覧なさい」 「あの髪の褐色のほうをとるわ」	杉浦希未
7月30日 (日) 13:00~13:30 15:00~15:30	京阪 シティーモール	植田佳奈子(Sop.) 植田祐佳(Sop.) 後藤美沙(Sop.) 中野澤幹子(Sop.) 白石麻奈美(Pf.)	『美女と野獣』より カントリーロード 『魔弾の射手』より二重唱 『フィガロの結婚』より「手紙の二重唱」 Etc	杉浦希未
8月19日	京阪	後藤美沙(Sop.)	献上 (R. シュトラウス)	楠田陽子

(土) 13:00~13:30 15:00~15:30	シティーモール	杉浦希未(Sop.) 竹越恭子(Sop.) 久保美緒(Pf.) 長谷川知里(Pf.) 楠田陽子(司会)	私を泣かせてください ハンガリー舞曲 ヘンゼルとグレーテルより二重唱 ムーン・リバー ねこふんじやった	
8月26日 (土) 13:00~13:30 15:00~15:30	京阪 シティーモール	植田佳奈子(Sop.) 植田祐佳(Sop.) 白石麻奈美(Pf.) 脇村昌悟(Pf.) 楠田陽子(司会)	『魔弾の射手』より「二重唱」、「アガーテのアリア」 ハンガリー舞曲 幻想即興曲 さびしいカシの木 翼(武光)、浜辺の歌	楠田陽子
8月28日 (月) 18:00~18:30	ハービスエント 《JEUGIA》	杉浦希未(Sop.) 中野澤幹子(Sop.) 長谷川知里(Pf.) 和泉真子(Pf.)	ピエ・イエズ、アメージング・グレイス、 さびしいカシの木、万礼節、 『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」 スクリャービンのソナタ 『クーブランの墓』よりメヌエット	長谷川知里
9月21日 (金) 18:00~18:30	ハービスエント 《JEUGIA》	植田祐佳(Sop.) 紀之定恵(Sop.) 浅井祐子(Pf.) 白石麻奈美(Pf.)	ザッツ・クラシック・エンターテイメント アヴェ・マリア(グノー)、明日、歌の翼に、野ばら アヴェ・マリア(シューベルト)、連弾の為のソナタ	長谷川知里
10月1日 (日) 13:00~13:30 15:00~15:30	京阪 シティーモール	植田佳奈子(Sop.) 植田祐佳(Sop.) 木村孝夫(Bar.) 井上綾乃(Pf.) 長谷川知里(Pf.) 楠田陽子(司会)	天国と地獄、高鳴る胸、春の声 霧と話した。赤とんぼ 『魔笛』より「パピンの二重唱」 『フィガロの結婚』よりコンテ&スザンナの二重唱 スラブ舞曲、剣の舞 『こうもり』より乾杯の歌	楠田陽子
10月7日 (土) 13:00~13:30 15:00~15:30	京阪 シティーモール	大森香奈(Mb.) 井前慶子(Vn.) 久保美緒(Pf.) 脇村昌悟(Pf.) 楠田陽子(司会)	シンコーペティッド・クロック、タイプライター パレエ、アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク タイスの瞑想曲、愛のあいさつ、 バッハ『無伴奏ヴァイオリンソナタ』、トルコ行進曲 アメージング・グレイス	楠田陽子
10月13日 (金) 18:00~	アマデウス	井前慶子(Vn.) 柴橋綾香(Sop.) 杉浦希未(Sop.) 井上綾乃(Pf.) 久保美緒(Pf.)	バッハ『無伴奏ヴァイオリンソナタ』 シューマン『リーダークライスOp. 39』より ラヴェル『プレリュードOp. 23』 猪本隆『村のたんぼ』 ショパン『ノクターン』	杉浦希未
10月15日 (日) 15:00~16:00	そねざき コミュニティ プラザ	原郁江(Fl.) 藤原美佳子(Sop.) 浅井祐子(Pf.) 白石麻奈美(Pf.) 前田有為子(Pf.)	日本の四季よりI、IV 赤とんぼ、虫の声、小さい秋みつけた、村まつり 紅葉、『四季』より「冬」、シチリアーノ きらきら星変奏曲、連弾の為のソナタ『ミニヨン』より 「君知るや南の国」、庭の千草、ふるさと	白石麻奈美
11月4日 (土) 13:00~13:30 15:00~15:30	京阪 シティーモール	植田祐佳(Sop.) 竹越恭子(Sop.) 和泉真子(Pf.) 楠田陽子(司会)	『椿姫』より「そはかの人か、花から花へ」 「乾杯の歌」、私のお気に入り、踊り明かそう ノクターン、バッハのプレリュード 君と旅立とう	楠田陽子
11月5日 (日)	京阪 シティーモール	植田佳奈子(Sop.) 藤原美佳子(Sop.)	オンブラマイフ、私を泣かせてください 『フィガロの結婚』より「バラのアリア」	楠田陽子

13:00～13:30 15:00～15:30		久保美緒(Pf.) 楠田陽子(司会)	「自分で自分わからない」 祈り(トスティ)、もみじ、虫の声	
11月26日 (日) 19:30～ 21:00～	Pia Julien	木村孝夫(Bar.) 木村真理子(Sop.) 杉浦希未(Sop.) 中野澤幹子(Sop.) 藤原美佳子(Sop.) 久保美緒(Pf.) 長谷川知里(Pf.)	○モーツァルト 『フィガロの結婚』より 『コジ・ファン・トゥッテ』より ○ドニゼッティ 『ドン・パスカール』より 歌曲「約束」 『愛の妙薬』より ○ロッシーニ 『セビリアの理髪師』より	杉浦希未
12月23日 (土) 17:00～17:30 18:00～18:30	京阪 シティーモール	植田祐佳(Sop.) 竹越恭子(Sop.) 後藤美沙(Sop.) 浅井祐子(Pf.) 楠田陽子(司会)	クリスマス・メドレー アメージング・グレイス 『カヴァレリア・ルスティカーナ』よりアヴェ・マリア オー・ホーリーナイト	楠田陽子
1月7日 (日) 13:00～13:30 15:00～15:30	京阪 シティーモール	竹越恭子(Sop.) 藤原美佳子(Sop.) 和泉真子(Pf.) 長谷川知里(Pf.) 楠田陽子(司会)	ジョップリンのイージー・ウィナーズ 愛する人よ、お願いだから愛する人よ、バラ、からまつ さくら横丁(別宮)、オーバー・ザ・レインボー 『トウランドット』より「氷のような姫君の心も」 『セビリアの理髪師』より「今の歌声は」	楠田陽子
1月13日 (土) 13:00～13:30 15:00～15:30	京阪 シティーモール	植田佳奈子(Sop.) 紀之定恵(Sop.) 楠田陽子(Pf.) 植田祐佳(司会)	歌の翼に、秋の歌(メンデルスゾーン) 日曜日、子守唄(ブラームス)、私の愛の日々、ソーニョ 『魔笛』より「夜の女王のアリア」 甘納豆、バースデー・ケーキ、埴生の宿(湯山 昭) グラドゥス・アド・パルキス	楠田陽子
3月4日 (日) 13:00～13:30 15:00～15:30	京阪 シティーモール	紀之定恵(Sop.) 竹越恭子(Sop.) 脇村昌悟(Pf.) 前田有為子(Pf.) 長谷川知里(司会)	花(滝廉太郎)、早春賦、高雅で感傷的なワルツ(ラヴェル) 『フィガロの結婚』より、「けんか」、「手紙」 革命のエチュード(ショパン)、 『蝶々夫人』より「ある晴れた日に」 『フィガロの結婚』よりスザンナのアリア 『動物の謝肉祭』より「白鳥」、「フィナーレ」	楠田陽子
3月4日 (日) 19:30～ 21:00～	Pia Julien	井前慶子(Vn.) 原郁江(Fl.) 植田佳奈子(Sop.) 植田祐佳(Sop.) 杉浦希未(Sop.) 白石麻奈美(Pf.) 井上綾乃(Pf.)	ヴァイオリンソナタ(モーツァルト)、FANのソナタ コーヒー・カンタータ、 『ヨハネ受難曲』より Ich Folge～ 『ロ短調ミサ』より「クリステ・エレイソン」 『魔笛』より「夜の女王のアリア」、「パミーナアリア」 『後宮からの逃走』より「なんとという喜び」 胸の高鳴り、明日、森の対話、月の夜、春の夜 なんと子供は幸せ、ウィーンわが夢のまち	杉浦希未

4-4. 就職・進学・社会活動等の支援等の体制が整備され、適切に運営されていること。

(1) 事実の説明(現状)

4-4-① 就職・進学に対する相談・助言体制が整備され、適切に運営されているか。

・ 就職・演奏活動支援体制

エクステンション事務部門が支援に取り組んでおり、就職を希望する学生の相談に乗っている。ま

た、演奏活動や作曲活動の支援は個人的な側面が大きく、各専攻の担当教員が相談にのる場合が多い。

・ 進学・留学支援体制

この問題に関してもそれぞれ専攻の担当教員が持っている情報を参考に個別に相談に乗っているのが現状である。

・ 進路（就職・進学等）状況

エクステンション事務部門が把握している修士課程修了時の進路調査結果によれば就職者は比較的少数である。企業に就職するよりも、そのまま研究・演奏活動を続けるケースが多い。

修了後の進路は、音楽教室の講師、教員活動等が多いが、声楽専攻修了者の中にはオペラ団体に所属して研修生となって研究をつづける場合が多く、管・弦・打研究室はそのままフリーのソロ奏者として様々な機会をとらえて演奏活動を開始し、ピアノ研究室ではソロの演奏者のみならずオペラのコレペティートルや伴奏者として活動をしている場合も多い。

図表 16 修了後の進路

2003（平成15）年度

研究室名	在籍	音楽/演奏	進学	留学	レスナー	大学教員	中高教員	企業	その他	不明
作曲	2	1								1
楽理	1		1							
オペラ	4	4								
歌曲	3	3			1					
ピアノ	4	3				1			1	
管弦打	7	4		3		2				
合計	21	15	1	3	1	3			1	1

2004（平成16）年度

研究室名	在籍	音楽/演奏	進学	留学	レスナー	大学教員	中高教員	企業	その他	不明
作曲	4	2		1	1		1			
楽理	3	1	1			1				
オペラ	3	2		1						
歌曲	4	2		1	1	1			1	
ピアノ	3	2		1	1	1				
管弦打	2	2								
合計	19	11	1	4	3	3	1		1	

2005（平成17）年度

研究室名	在籍	音楽/演奏	進学	留学	レスナー	大学教員	中高教員	企業	その他	不明
作曲	2				1		1			
楽理	2	1	1		1					
オペラ	3	3								
歌曲	2	2			2					
ピアノ	2			1	1	1				
管弦打	1	1								
合計	12	6	1	1	5	1	1			

注1 複数の仕事に関わっている場合、在籍者数より進路別の数が多くなっている。

注2 その他には、結婚、無職が含まれる。

4-4-②インターンシップや資格取得等のキャリア教育のための支援体制

エクステンション事務部門が「キャリア・デザイン」関連の複数のプログラムを実施し、そのためのハンドブックも作成している。またキャリア活動としても演奏・作曲・研究活動の支援を積極的に行っている。

(2) 4-4の自己評価

音楽活動が必ずしも狭義の意味における企業等への就職に直結しない事実があるとは確かであるが、キャリア形成を幅広くとらえ、専門的能力を活用できる機会を拡大すべく努力している。

(3) 4-4の改善・向上方策（将来計画）

各専攻の担当教員は個人的に把握していても、大学院が全体として学生の修士課程修了後の動向を正確に把握しているとは言い難い。今後は追跡調査を行うなど、修了生の社会における活動の実態をしっかりと掴む必要がある。修了生の能力を引き上げることで、尚一層の支援システムを可能にすべきである。

【基準4の自己評価】

学生の学修、研究活動をよりスムーズに行うためには、経済的支援（奨学金等）に加え、積極的な求人紹介・斡旋にもっと力を入れるべきである。

【基準4の改善・向上方策（将来計画）】

大学院奨学金は貸与ではなく、給付である。現在は、入学時に優秀な成績で合格した者に対して入学当初から給付がなされているが、入学後の奮闘を考慮に入れるならば、年度毎に給付の対象を検討し直す方式に変更した方がより実質的になる。

音楽大学に設置されている大学院として作曲専攻音楽学研究室を除いて、学生は基本的に大学院修了後、演奏活動に重点を置いている。大学院修了生が広く社会で活躍するためにも、支援体制の充実が課題である。